

南信州地域におけるコンベンション施設及び屋内体育施設の整備に関する考え方

平成 30 年 5 月 15 日 第 2 回南信州広域連合会議

●リニア将来ビジョン（平成 22 年 11 月）から関係部分を抜粋

【対外的に目指す地域像】

飯田下伊那地域が、外来者の舞台となることや地域外へ情報を発信することにより、日本のモデル的事業の展開や世界で誇れるような地域になることを目指します。

グローバル化(国際性)
～小さな世界都市へ～

地域ブランドの確立
～多機能高付加価値都市圏へ～

リニア中央新幹線の開通により大都市圏への時間距離が短縮され、中部国際空港や羽田空港、成田空港までのアクセスが格段に向上します。リニア中央新幹線の実現は、国内はもちろんのこと、海外との繋がりもこれまで以上に高まり、グローバル化を促進します。

このグローバル化を活かし、地域特有の伝統や普遍性のある文化、例えばこの地域の特徴的な文化である「人形劇」を、外からの文化と融合しネットワークを構築したり、世界からの研究加発機能の集積など、人のつながりを大切にする風土を活かした小さな世界都市を目指します。

具体的なまちづくりの案

【生む・育てる・学ぶ】

○海外研究者の来訪の拡大

国際空港へのアクセスが圧倒的に良くなることにより、豊かな自然や文化環境などが備わるこの地域に魅力を感じ、海外からの来訪者の増加、国際会議の開催の可能性が高まることが想定されます。

【働 く】

○国際会議の舞台

観光コンベンションでは、例えば、G 7 やサミットのような国際会議の舞台として期待できます。この地域の「環境」の取り組みを前面に出し、リニアの時間短縮効果を活かした国際会議の誘致が必要です。

【住む・交流する】

○「世界一来てみたい都市（町）」の実現に向けて

・国際会議のまち

リニア新幹線により我が国が必要とする国際的な機能や世界的に人が集まりやすい機能を有するようになることを最大限利用し、アルプスや天竜川など豊かな自然に囲まれた風光明媚な土地であること、民俗芸能伝承の宝庫であるといわれる高い文化性を持つ地域であることなどを PR して、様々な国際会議の積極的な誘致が必要です。例としては、小規模でも世界レベルの経済会議、環境世界都市会議、国際リニア都市会議、世界こども会議、世界丘の街サミットなどが挙げられます。

・スポーツ大会の世界大会開催

美しい自然環境の地域であることから、アウトドアをコンセプトにしたスポーツの世界大会の検討が必要です。国内大会では実績のある自転車や南アルプスや溪流などの自然資源を活用したトレッキング、沢登り、軽登山、マラニック、あるいは、景観を活かしたマラソンなどが考えられますが、現在の取り組みをバージョンアップさせていくことで実現も可能と考えます。併せて自然生態系や環境保全のためのゾーニングやルール作り、登山ガイドの育成、山岳資源を継承していける地域活動づくりを進めることも大切です。

●「基本的な考え方」をまとめるに当たっての視点（事務局案）

◎リニア時代の当地域の将来像を具体的に「グランドデザイン」として描く中で真に必要な（求められる）機能を改めて整理した上で、新たに施設を整備する場合の機能・規模・配置等の考え方をまとめる必要

○コンベンション施設検討の視点

大都市・他地域との機能の棲み分け

先行する大都市・他地域との競争となることを意識し、この地域の特性を活かしたコンベンションの在り方を十分に検討しておく必要

○屋内体育施設検討の視点

「観るスポーツ」という視点

「するスポーツ」に加え、「観るスポーツ」という視点の必要性について検討

圏域外からの利用促進

全国レベルの大会が開催できる施設とすることについての検討

アリーナを拠点とした一流アスリート等の合宿地等、地域資源との連携による受け入れ態勢の構築検討

○全体に係る視点

施設整備の波及効果：購買、飲食、宿泊、観光等、施設整備による波及効果を地域全体で享受できるしくみの検討

持続性：持続的経営のできる施設の在り方及び施設の安定的マネジメントの検討

●コンベンション施設、アリーナ等に係る各種計画等の位置づけ

